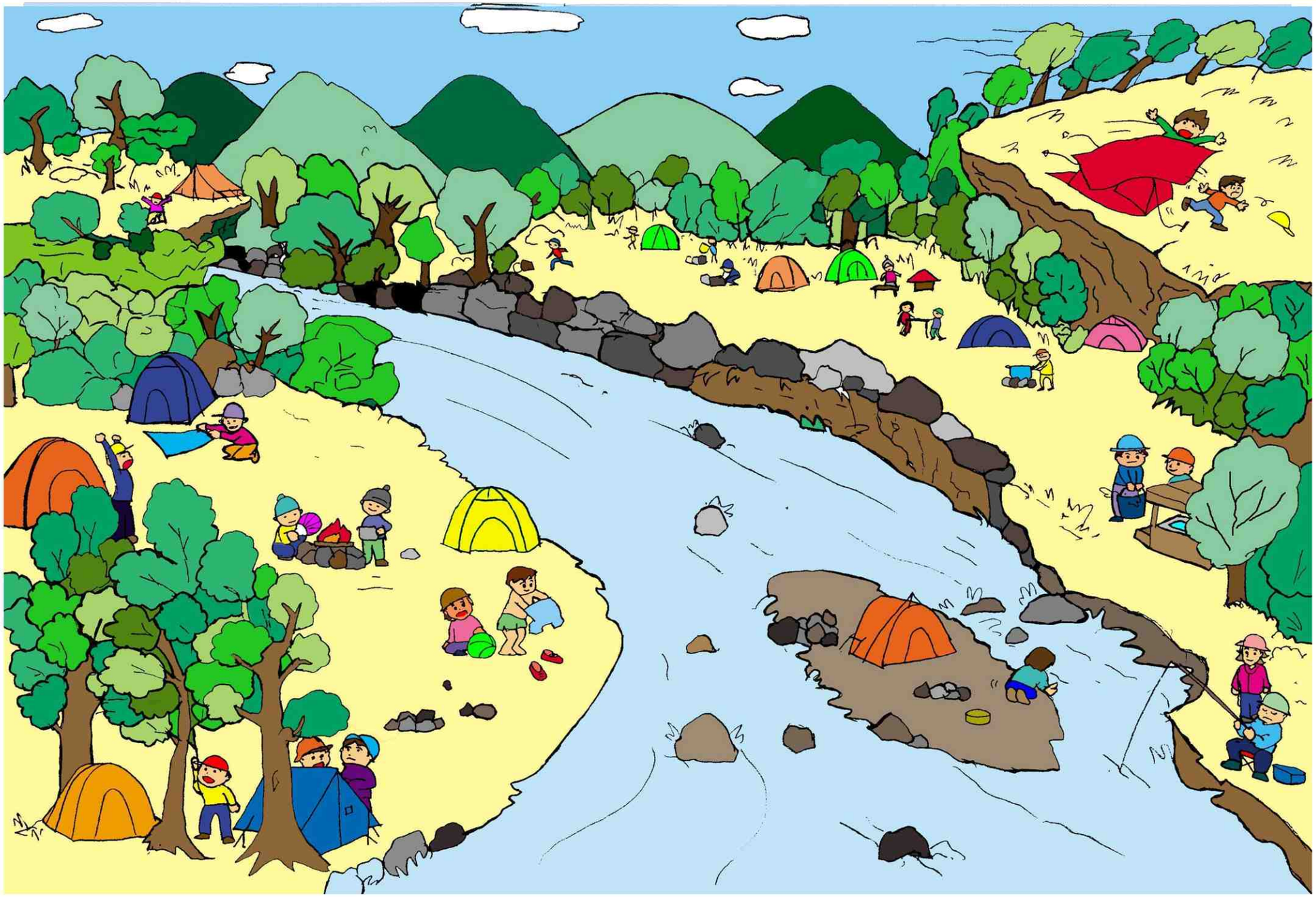
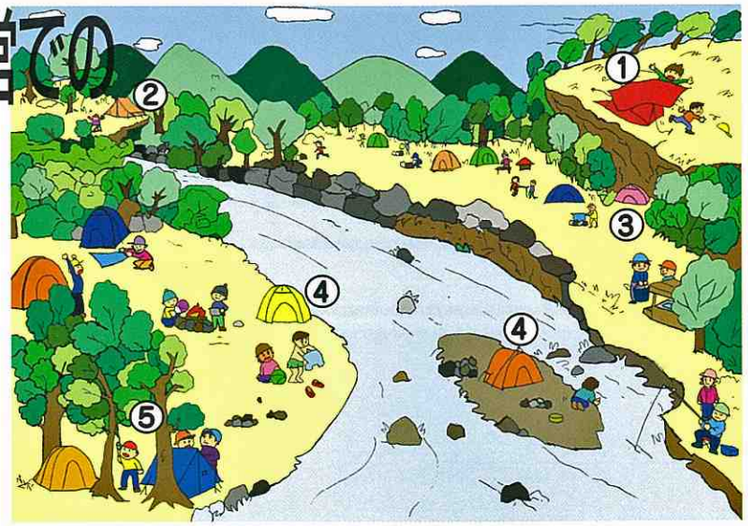
どこにどのような危険があるか考えてみよう

楽しそうにキャンプしています。いろいろなところにテントが張られていますが、事故につながる危険な場所に張られたテントも見かけられます。
危険なところに張られているのはどのテントで、どのような危険があるか、みんなで考えてみましょう。

1 テント設営での危険



1. テント設営での危険



ここが危ない！

① 張られている 風が吹き抜ける場所にテントが

このテントは風が吹き抜ける場所に張ってあります。この場所のように周囲に風をさえぎるものがなく、吹きさらしになる場所では強い風が吹きやすく、テントごと飛ばされる危険があります。

また、夜間に強い風が吹くとテントがパタパタと音をたて、一晩中寝られないということもあります。睡眠不足から体調を崩すことにもなりかねません。

このような危険や健康を損なうことがあるので、風が吹き抜ける場所には、テントを張らないようにしましょう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

② 崖の上にテントが張られている

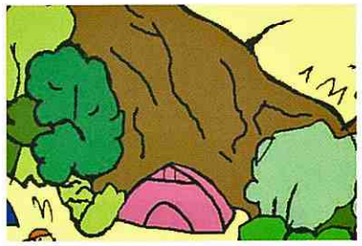
このテントは崖の上に張ってあります。崖はいつ崩れ落ちるかわかりません。崖崩れによりテントごと落下する危険があります。また、夜間に行動するときなど懐中電灯の明かりだけでは、足を踏み外して崖から転落する危険もあります。

崖の上にはこのような危険があるので、テントを張らないようにしましょう。

③ 崖の下にテントが張られている

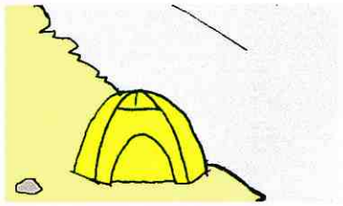
このテントは崖の下に張ってあります。崖はいつ崩れ落ちるかわかりません。崖崩れが起きると、土砂でテントごと押しつぶされてしまう危険があります。また、雨や風、ちょっとした振動などによって落石の危険もあります。

崖の下にはこのような危険がありますので、テントは張らないようにしましょう。



＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

④ 河原や中州にテントが張られている



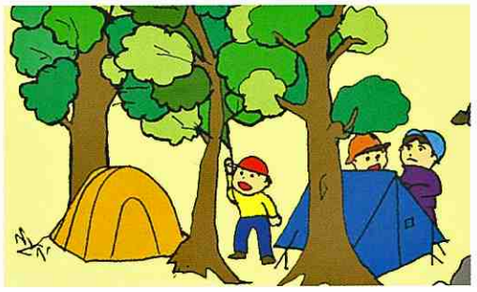
テントが河原や中州に張られています。河原や中州は雨などで川が増水して、テントごと流される危険があります。特に中州は晴れているときは陸のように見えますが、いったん雨が降ると増水し川底となり、テントが流される危険があります。

１９９９年８月、神奈川県山北町を流れる玄倉川の中州で、キャンプしていたファミリーキャンパー１８人が大雨で増水した川にテントごと流され、子どもを含めた１３人が亡くなりました。

川の中州は、川底と同じだと考え、テントは絶対に張らないようにしましょう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

⑤ 木の下にテントが張られている



テントが木の下に張られています。木の下は安全のように思われますが、雷の多い所では、木に落ちた雷の側撃を受ける危険があります。木のそばにテントを張るときには、木を地面から見上げる角度が４５度以上の範囲内で、なおかつ、木の枝、葉、幹から最低２メートル以上離れた場所が安全な場所といわれています。

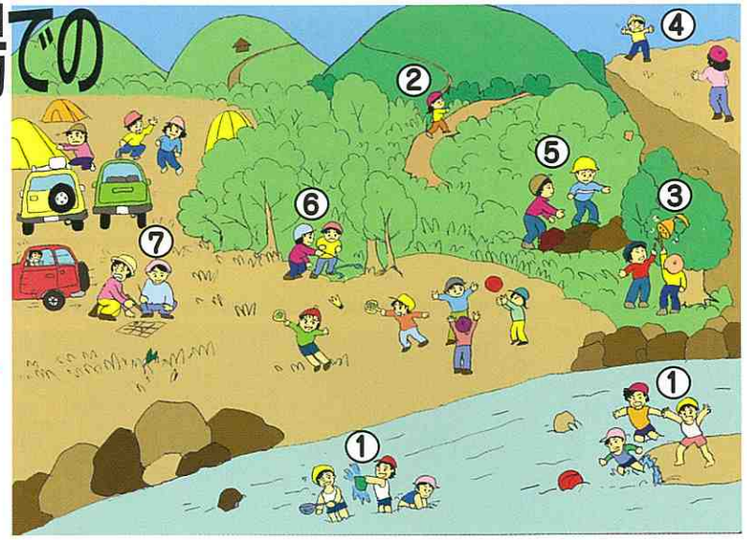
また、木によっては、強風で倒れたり折れたりする危険もあるので注意しましょう。

どこにどのような危険があるか考えてみよう

キャンプ場で、子どもたちが遊んでいます。
楽しそうに遊んでいますが、危険な遊びや危険につながる行動も見られます。
どこにどのような危険があるか、みんなで考えてみましょう。

2 キャンプ場での危険（昼間）

2. キャンプ場での危険（昼間）



ここが危ない！

① 子どもたちだけで川の中で遊んでいる

川の中で子どもたちが楽しそうに遊んでいますが、その近くに大人がいません。川の深さは子どもの膝くらいですが、この深さでも流れに足をとられて流される危険があります。

また、川底には深みがあって、溺れる危険性もあります。子どもに川遊びをさせるときには、事前に水流や川底の状態、水深などについて調べておく必要があります。

そして、子どもが川遊びをしているときは、必ず大人が川の近くで、子どもたちから目を離さないよう見守りましょう。

② 子どもが一人で山道を歩いている

自然の中では、日常の生活環境とは異なり、どのような危険が待ち構えているかわかりません。一人で行動することは危険なだけでなく、事故が起きたときに助けを求めることもできず、重大事故に結びつく可能性があります。

これは子どもだけでなく、大人についても言えることです。自然の中で行動するときは、必ず大人が付き添うようにします。また、大人であっても一人で行動することは慎みましょう。

③ ハチの巣を棒でつついている

子どもが、ハチの巣を棒でつついて遊んでいます。このように巣をつついたりしてハチを刺激すると、ハチは自分の生活を守るために人に襲いかかり、刺すなどして大変危険です。

スズメバチは日本中どこにでもいて、巣は樹上だけでなく人家の天井裏や地中にもつくります。巣を見つけたら、むやみに石を投げたり棒でつついたりして刺激しないようにしましょう。

万一襲われた場合は、姿勢を低くしてゆっくり後ろに逃げるようにします。スズメバチは夏から秋にかけて、活動が活発になり危険な時期となります。この時期には、よりいっそうの注意が必要です。日本では、スズメバチに刺されて死亡する人が年間に３０人～４０人にもなっています。

④ 子どもが崖の上に立っている

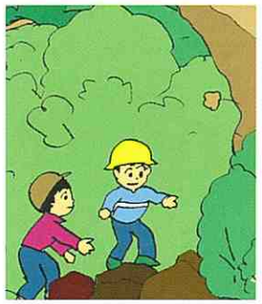
子どもが崖の上の先端部に立っていて、それを見た大人が走り寄ろうとしています。崖の先端部には、危険防止のための柵もありません。このままでは足を踏み外して、崖から転落する危険があります。

この場面では、大人が気づいたからよかったものの、気がつかなければ滑落や転落といった重大事故が起きる可能性もあります。野外では、いろいろなところに危険があります。大人は子どもの行動について、片時も目を離さないことが事故を防ぐ上で大切です。

⑤ 崖の下で遊んでいる

子ども二人が崖の下で遊んでいます。このような崖の下では、崖崩れによる土砂の下敷きになる危険、風雨などによる落石の危険があります。その他にも崖の下にテントを張ったり、かまどなどを作って野外料理をしたりすることも危険です。

崖下は、多くの見えない危険が隠されているので、十分な注意が必要です。



⑥ 棒で蛇をつついている

子どもが蛇を棒でつついています。毒をもった蛇に咬まれると大変危険です。蛇は刺激しない限り襲ってきませんが、棒でつついたり捕まえようとすると驚いて襲いかかることがあります。蛇を見かけても手を出さないことが、咬まれないための予防になります。

また、裸足やサンダルなどで、草むらに入らないようにすることも大切です。

日本にいる毒蛇は、マムシ、ヤマカカシ、ハブの三種類で、ハブ以外は日本の全土にいます。

⑦ 子どもが遊んでいるところへ車がバックしてきている

子どもが遊んでいるところへ、車がバックしてきています。車がテントサイトまで乗り付けることのできる、オートキャンプ場において見られる危険です。

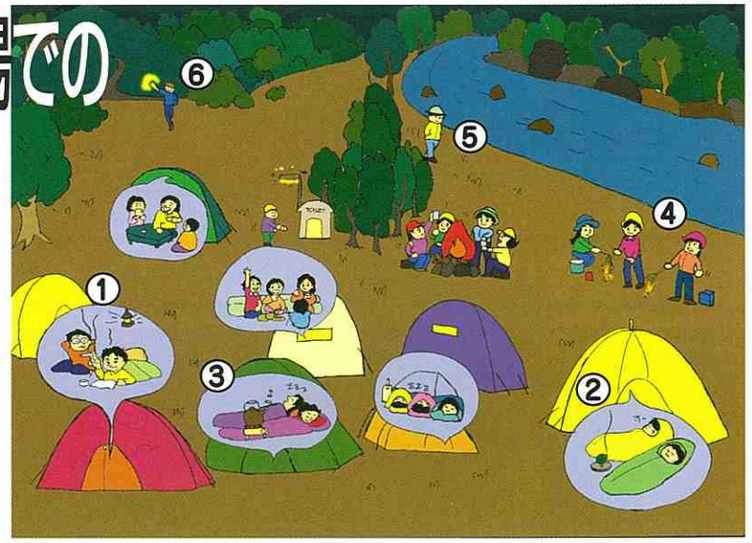
キャンプ場内には他のファミリーキャンパーもいて、多くの子どもたちが遊んでいます。キャンプ場内で車を運転する時は、車の速度やバックするときの後方の確認、子どもの飛び出しなど、一般道を走るとき以上に安全運転が求められます。子どもにも車が通るところや入ってくるところでは、遊ばないように注意しておくことが大切です。

どこにどのような危険があるか考えてみよう

この場面は、キャンプ場の夜の風景です。
キャンプ場の夜は、昼間とは違った面白さや楽しさがたくさんあります。
キャンパーはいろいろなことをして過ごしていますが、危険な状況や事故につながる危険な行動も見受けられます。
どこにどのような危険があるか、みんなで考えてみましょう。

3 キャンプ場での危険（夜間）

3. キャンプ場での危険（夜間）



ここが危ない！

① テントの中でタバコを吸っている

テントの中でタバコを吸っています。不注意や不始末でタバコの火がテントに引火することも考えられます。

テント火災の怖さは、大火傷や死亡に直接つながることです。特に、“寝タバコ”は危険ですから絶対に止めましょう。

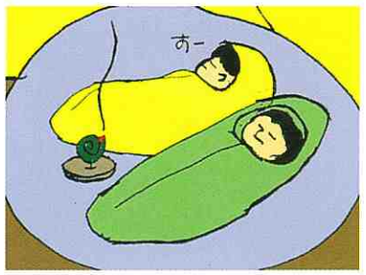
また、テントの外でも“タバコの投げ捨て”が大きな山火事などにつながることも知られています。タバコは決められた場所で吸うようにし、吸い終わったあとは完全に火を消すようにしましょう。

＊＊

② テントの中で蚊取り線香を焚いている

夏のキャンプでは、テントの出入りで扉を開け閉めしたときに蚊がテントの中に入り、安眠を妨げられることがあります。だからといって、テント内で蚊取り線香を焚いて寝たりすることは避けましょう。蚊取り線香から寝袋に火が燃え広がり、焼死するという事故が起きています。

むしろ、寝る前に殺虫剤などで蚊を退治してから寝るようにしましょう。



③ 掛けたまま寝てしまっている テントの中でコンロにやかんを

夏の季節のキャンプといえども、場所によっては夜間にかなり冷え込みます。夏以外の季節ではなおさらです。このようなときには、どうしても暖をとりたくなります。しかし、テントの中でコンロを使用するのは危険です。 コンロの使用による、酸欠や一酸化炭素中毒の危険があるだけでなく、テントに引火することもあります。これらはいずれも重大事故につながるため、テントの中では燃焼器具類の使用は絶対に止めましょう。

＊＊

④ 子どもだけで花火をしている

子どもたちが楽しそうに花火をしています。キャンプ場での花火はよく見かける光景ですが、この場面では近くに大人がいません。

キャンプ場に限ったことではありませんが、花火をするときには点火するときの火傷の危険のほか、花火を振り回したり、風にあおられることによって、衣服等に火が燃え移って火傷したり、場所によっては周囲に引火する危険があります。

花火をするときには、必ず大人が付き添い、そばに水の入ったバケツを用意しておくなどして、万が一の危険に備えましょう。

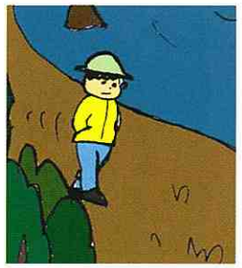
＊＊

⑤ 懐中電灯を持たずに歩いている

散歩でもしているのでしょうか、川のそばを懐中電燈も持たずに歩いている人がいます。キャンプ場の夜は、暗闇につつまれるところが多くあります。

野外では昼間でも、どんな危険が待ち受けているかわかりません。ましてや夜間に懐中電灯を持たずに行動することは大変危険です。

この場面では、歩いているそばに川があるので、過って川に落ちて重大事故に結びついてしまうことも考えられます。外灯のないキャンプ場で夜間に行動するときは、懐中電灯等を用意するようにしましょう。



＊＊

⑥ 一人で山の方に向かって歩いている

山頂に星空でも眺めに行くのでしょうか、一人で山奥に向かって歩いている人がいます。キャンプ場のように都会から離れたところでは、すばらしい星空を眺めることができますが、一人で行動するのは大変危険です。

野外には予想できない危険がたくさんあります。また、日中は危険でなかったことが、夜になると危険になることもあります。一人では危険に遭遇したときに、助けを求めることもできず、重大事故につながりかねません。

夜の野外では、子どもはもちろん、大人であっても、絶対に一人で行動しないようにしましょう。